

The Kita Osaka Shinkin Bank



北おおさか信用金庫

景況レポート

2024年7～9月期 No.43

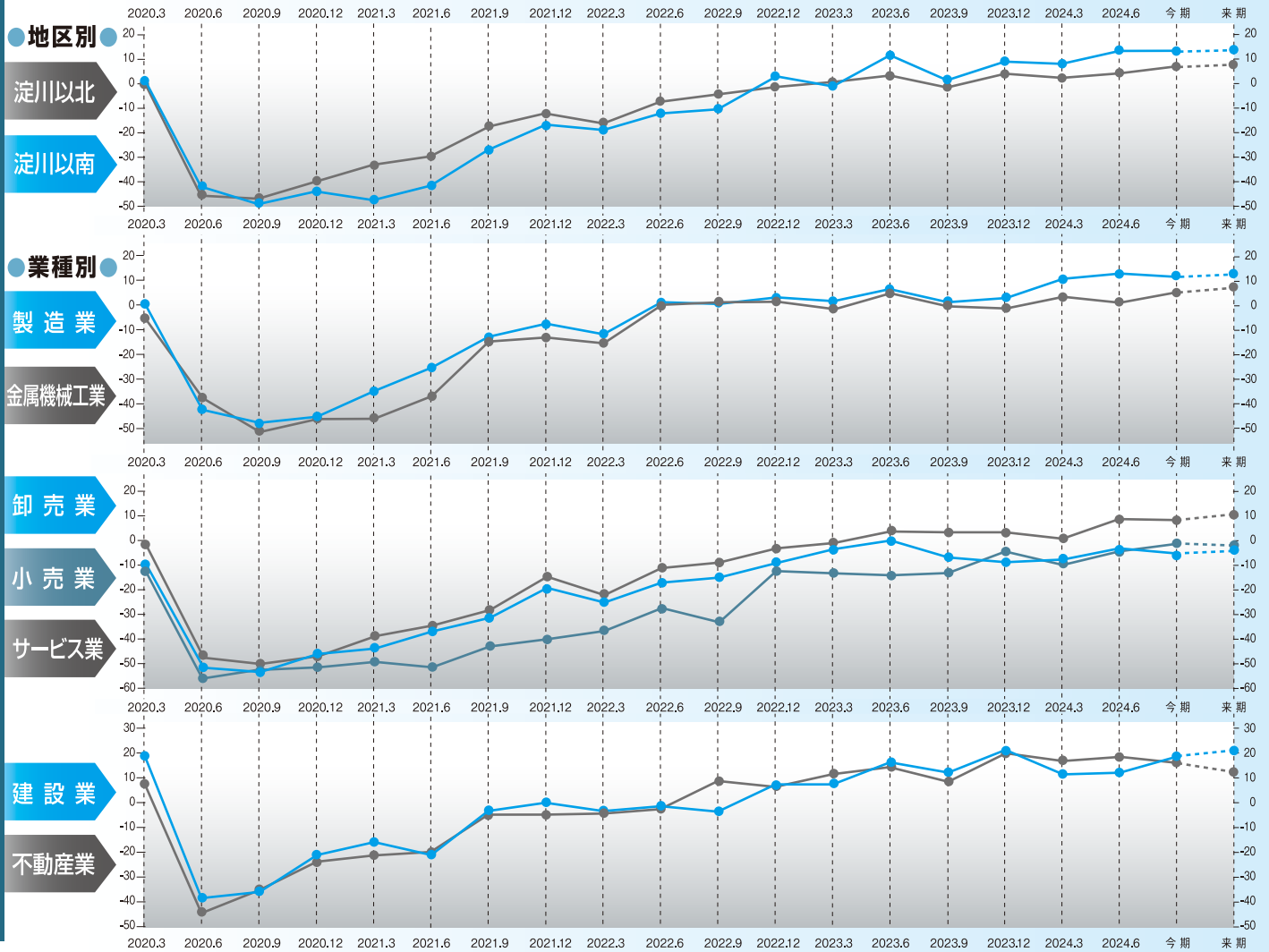
Business Condition Report



この街の未来をひらく

北おおさか信用金庫





INDEX

地区別・業種別 業況判断DI 来期予想までの推移・目次	1
調査概要	2
全業種総合	3・4
製造業	5
金属機械工業	6
卸売業	7
小売業	8
サービス業	9
建設業	10
不動産業	11
特別調査「DX(デジタルトランスフォーメーション)について」	12・13・14

【調査概要】 調査対象……………地元企業 1,200社(有効回答1,200社)
調査時期……………2024年9月
調査対象期間…2024年7月～9月期 当期の実績(2024年4月～6月期との比較)
2024年10月～12月期 来期の見通し(2024年7月～9月期との比較)
調査方法……………当金庫職員による調査表に基づく聞き取り調査
分析方法……………DI(ディフュージョン・インデックス)を中心とした分析

●DIとは

各調査項目について「良い」「増加」「上昇」「過剰」「楽・容易」の回答割合から、「悪い」「減少」「低下」「不足」「苦しい・難しい」の回答割合を差引いた数値です(普通、変わらず、適正は除外しております)。

(例) 良い10%、やや良い20%、普通30%、やや悪い15%、悪い25%の場合

①良い = 良い10% + やや良い20% = 30%

②悪い = 悪い25% + やや悪い15% = 40%

DI = ① - ② = ▲10

●調査内容と注意点

- (1) 売上額、収益、受注残高、販売・仕入価格、在庫、資金繰り、残業時間は前期と比べた当期の状況(来期見通しは当期と比べた来期予想)です。
(2) 業況、人手、借入の難易度は、前期比ではなく、その時点での状況です。

●各判断DIが示す内容

	(プラス)	(マイナス)
業 況	現状 「良い」	現状 「悪い」
売上額・収益	前期比「増加」	前期比「減少」
受注残高・残業時間	前期比「増加」	前期比「減少」
販売価格・仕入価格	前期比「価格上昇」	前期比「価格下降」
(原材料)在庫	前期比「過剰」	前期比「不足」
資金繰り	前期比「楽」	前期比「苦しい」
人 手	現状 「過剰」	現状 「不足」
借入の難易度	現状 「容易」	現状 「難しい」

※DIプラスが良いとは限りません(例:仕入価格判断DIプラスは前期比価格上昇)

■対象企業の業種・従業員別構成

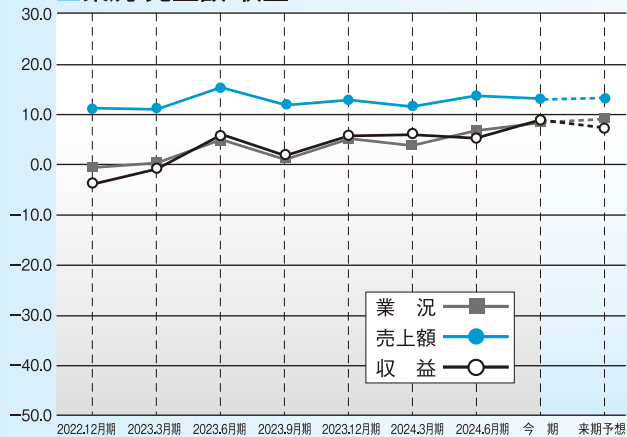
	4名以下	5～9名	10～19名	20～29名	30～49名	50～99名	100名以上	合 計(構成比)	
製 造 業	31	58	46	20	19	19	7	200	16.7%
金属機械工業	66	51	30	25	14	7	7	200	16.7%
卸 売 業	46	35	23	7	6	2	1	120	10.0%
小 売 業	70	36	18	8	3	10	5	150	12.5%
サービス業	52	46	29	20	24	19	10	200	16.7%
建 設 業	63	58	49	17	6	3	4	200	16.7%
不 動 産 業	73	40	11	1	3	1	1	130	10.8%
合 計	401	324	206	98	75	61	35	1,200	100.0%
(構成比)	33.4%	27.0%	17.2%	8.2%	6.3%	5.1%	2.9%	100.0%	—

*製造業の構成比が他5業種と比較して大きいため、製造業のうち金属機械工業を1業種として分割しております。

●調査地域●

淀川以北:島本町、高槻市、茨木市、吹田市、摂津市、豊中市、箕面市、池田市、伊丹市、尼崎市、東淀川区、淀川区、西淀川区 他 淀川以北
淀川以南:寝屋川市、門真市、守口市、北区、西区、中央区、城東区、旭区、住吉区、此花区、福島区 他 淀川以南

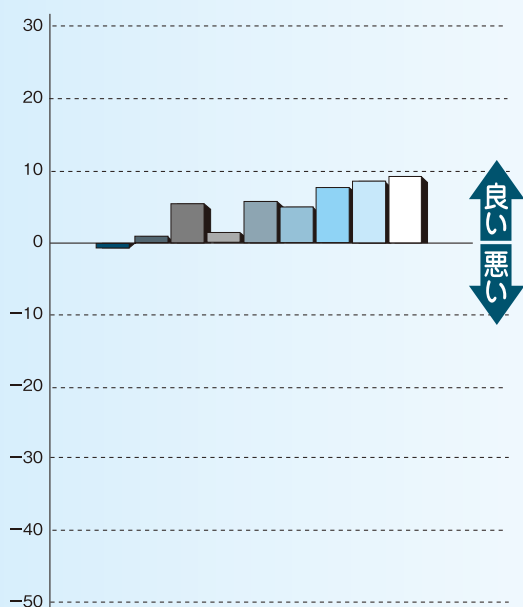
■ 業況・売上額・収益



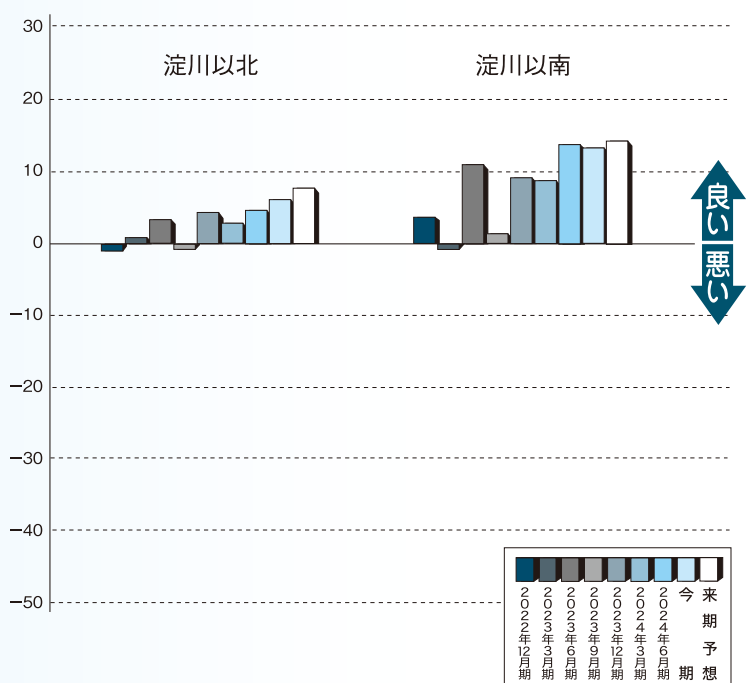
■ 全業種総合 DI値の推移

	2022.12月期	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	今期	来期予想
業況	-0.3	0.5	5.3	1.6	5.5	4.3	7.2	8.6	9.3
売上額	11.5	11.3	15.5	12.5	13.3	12.0	14.1	13.5	13.9
受注残	12.9	11.0	8.3	10.7	12.5	12.7	9.5	13.7	13.5
施工高	21.0	17.1	17.0	23.0	29.0	25.0	24.0	23.5	22.5
収益	-2.6	-0.9	5.8	2.4	5.8	6.3	5.8	9.1	7.9
販売価格	33.1	33.2	28.6	32.3	30.4	29.2	31.4	27.7	26.0
原材料・仕入価格	59.8	55.4	48.9	50.8	47.0	41.1	45.8	40.8	37.5
在庫	-4.0	-1.4	-1.9	0.1	0.5	0.0	1.7	-0.4	-1.3
資金繰り	-1.7	-1.5	-2.6	-1.8	-1.4	-3.3	0.2	-0.6	-1.6
従業員残業時間	7.7	6.7	6.9	5.9	6.1	5.9	6.9	6.3	5.3
従業員人手	-12.7	-12.5	-13.5	-12.2	-14.0	-11.9	-13.0	-10.2	-10.7
設備状況	-3.7	-3.8	-2.9	-2.8	-3.6	-3.2	-3.0	-1.4	-2.3

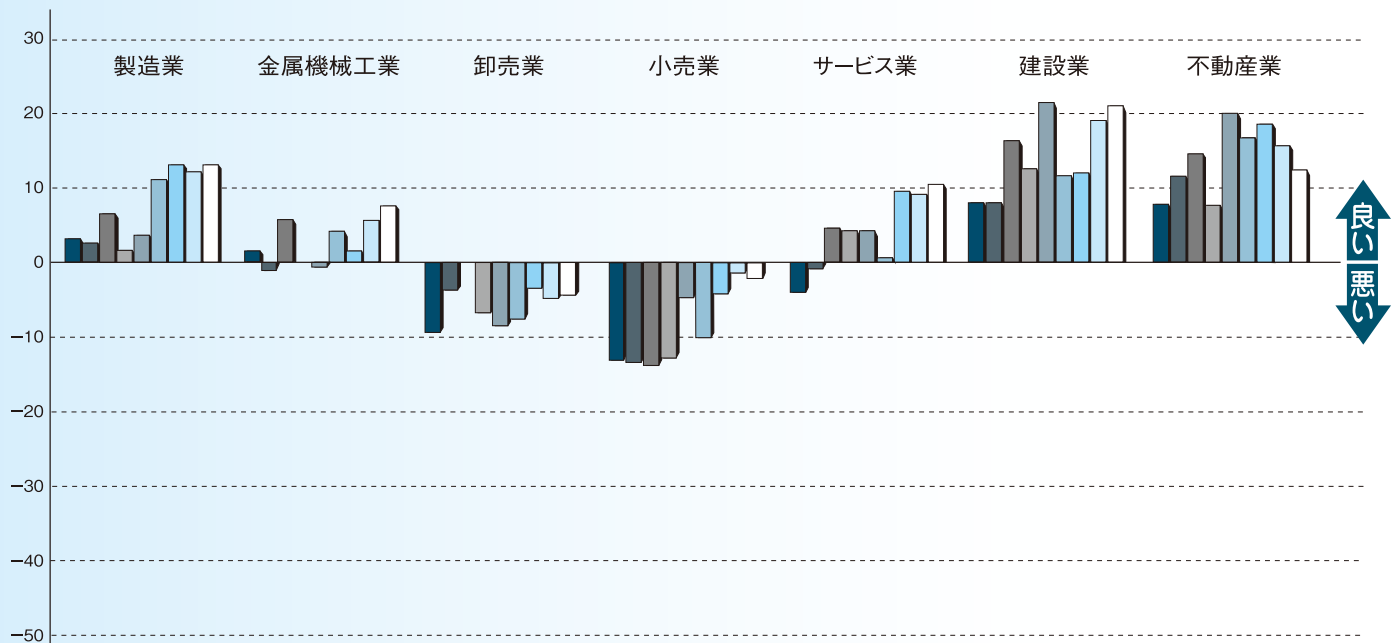
■ 全体業況判断DI



■ 地区別業況判断DI



■ 業種別業況判断DI



業況について

2024年7月～9月期 ～業況は前期比1.4ポイント増の小幅な改善～

2024年7月～9月期、全業種の業況判断(DI)は8.6(前期比1.4ポイント増)と小幅な改善になった。
来期予想の業況判断(9.3)は概ね横ばいの見通し。

《業種別》 ～建設業、金属機械工業は改善、小売業はわずかな改善、サービス業は概ね横ばい、 製造業は小幅な悪化、卸売業はわずかな悪化、不動産業は悪化～

業種別にみると、「建設業」は19.0(前期比7.0ポイント増)、「金属機械工業」は5.5(同4.0ポイント増)の改善。「小売業」は▲1.3(同2.7ポイント増)のわずかな改善。「サービス業」は9.0(同0.5ポイント減)と概ね横ばいした。「製造業」は12.0(同1.0ポイント減)と小幅な悪化。「卸売業」は▲5.0(同1.7ポイント減)とわずかな悪化した。「不動産業」は15.4(同3.1ポイント減)と悪化となった。

～淀川以北地域はわずかな改善、淀川以南地域はほぼ横ばい～

地域別にみると、淀川以北地域の業況判断(DI)は7.2(前期比2.6ポイント増)とわずかな改善。淀川以南地域は13.6(同0.1ポイント減)とほぼ横ばい。
淀川以北地域の業種別では、建設業(前期7.2→今期15.6)、サービス業(同1.9→同6.3)、金属機械工業(同1.9→同5.8)は改善、小売業(同▲5.5→同▲2.7)、製造業(同11.6→同13.1)はわずかな改善。卸売業(同▲5.3→同▲6.5)は小幅な悪化。不動産業(同17.3→同10.3)は悪化となった。

淀川以南地域の業況判断(DI)では、金属機械工業(前期▲2.4→今期7.7)と大幅な改善となった。不動産業(同21.4→同28.6)、小売業(同0.0→同5.9)、製造業(同16.0→同20.0)と改善となった。卸売業(同▲2.6→同0.0)とわずかな改善。建設業(同34.4→同34.4)と横ばい。サービス業(同33.3→同16.2)はかなり大幅な悪化となった。

来期の業況判断予想は、淀川以北地域(7.5)、淀川以南地域(14.0)とともに、ほぼ横ばいの見通し。

売上額・収益の動き

～売上額は概ね横ばい、収益は改善～

売上額判断(DI)は13.5(前期比0.6ポイント減)は概ね横ばい。収益判断(DI)は9.1ポイント(同3.3ポイント増)と改善となった。
来期予想の売上額判断(13.9)はほぼ横ばい、収益判断(7.9)は小幅な悪化の見通し。

販売価格・原材料・仕入価格の動き

～販売価格は悪化、原材料(仕入)価格は改善～

販売価格判断(DI)は27.7(前期比3.7ポイント減)は悪化、原材料・仕入価格判断(DI)は40.8(同5.0ポイント減)は改善した。
来期予想の販売価格判断(26.0)はわずかな悪化、原材料・仕入価格判断(37.5)は改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

～資金繰りは改善、人手は小幅な悪化～

資金繰り判断(DI)は▲0.6(前期比0.8ポイント減)と概ね横ばい。
人手判断(DI)▲10.2(同2.8ポイント増)はわずかな改善。人手判断の内訳は、不足とする企業の割合は前期13.4%→今期11.2%とわずかな低下。人手過剰とする企業の割合は同0.4%→同1.0%と概ね横ばい。適正とした企業の割合は同86.2%→同87.8%とわずかな上昇となった。
来期予想の資金繰り判断(▲1.6)小幅な悪化、人手判断(▲10.7)概ね横ばいの見通し。

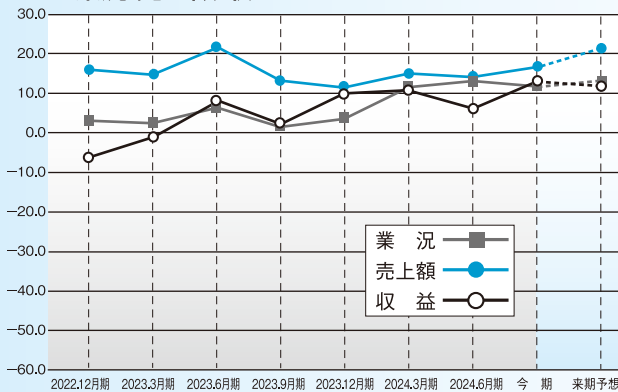
経営上の問題点

	1位	2位	3位	4位	5位
製造業	売上の停滞・減少 41.0%	原材料高 28.5%	同業者間の競争の激化 21.5%	利幅の縮小 20.5%	人手不足 18.5%
金属機械工業	売上の停滞・減少 87.0%	人手不足 24.5%	原材料高 22.5%	同業者間の競争の激化 22.0%	大手企業との競争の激化 14.5%
卸売業	売上の停滞・減少 51.7%	同業者間の競争の激化 30.8%	人手不足 15.0%	利幅の縮小 12.5%	仕入先からの値上げ要請 10.0%
小売業	売上の停滞・減少 45.3%	同業者間の競争の激化 27.3%	大型店との競争の激化 16.0%	利幅の縮小 12.7%	人手不足 11.3%
サービス業	売上の停滞・減少 69.5%	同業者間の競争の激化 36.0%	人手不足 34.5%	人件費の増加 13.0%	利幅の縮小 9.0%
建設業	売上の停滞・減少 79.5%	人手不足 42.5%	同業者間の競争の激化 32.0%	材料価格の上昇 20.0%	人件費の増加 9.0%
不動産業	売上の停滞・減少 63.8%	商品物件の不足 41.5%	同業者間の競争の激化 34.6%	商品物件の高騰 20.8%	大手企業との競争の激化 12.3%

当面の重点経営施策

	1位	2位	3位	4位	5位
製造業	販路を広げる 57.5%	経費を削減する 38.0%	情報力を強化する 19.0%	新製品・技術を開発する 11.5%	人材を確保する 11.5%
金属機械工業	販路を広げる 56.0%	経費を削減する 28.5%	情報力を強化する 18.0%	人材を確保する 15.0%	教育訓練を強化する10.0%
卸売業	販路を広げる 76.7%	経費を削減する 37.5%	情報力を強化する 15.0%	品揃えを充実する 13.3%	提携先を見つける 10.8%
小売業	品揃えを充実する 51.3%	経費を削減する 34.7%	宣伝・広告を強化する 27.3%	売れ筋商品を取り扱う 14.7%	仕入先を開拓・選別する 8.7%
サービス業	販路を広げる 51.0%	経費を削減する 33.0%	宣伝・広告を強化する 18.0%	人材を確保する 17.0%	教育訓練を強化する 8.5%
建設業	販路を広げる 54.5%	経費を削減する 30.0%	人材を確保する 26.0%	情報力を強化する 20.0%	技術力を高める 13.5%
不動産業	情報力を強化する 50.0%	販路を広げる 48.5%	経費を削減する 22.3%	宣伝・広告を強化する 22.3%	その他 13.1%

業況・売上額・収益



製造業 DI値の推移

	2022.12月期	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	今期	来期予想
業況	3.0	2.5	6.5	1.5	3.5	11.0	13.0	12.0	13.0
売上額	16.0	15.0	21.0	13.0	11.5	15.0	14.0	17.0	21.0
受注残	13.5	10.0	10.5	5.0	11.0	12.0	12.0	10.0	12.5
収益	-5.6	-1.0	8.0	2.0	10.0	10.5	6.5	13.0	12.0
販売価格	34.2	37.0	37.0	41.5	32.0	35.5	45.0	38.0	34.5
原材料価格	67.5	62.5	60.0	60.0	54.5	46.5	59.5	48.5	45.0
在庫	0.5	0.0	1.5	4.5	2.0	0.0	4.0	2.0	2.0
資金繰り	5.1	3.5	0.0	4.5	1.5	2.0	9.0	3.0	2.0
従業員残業時間	6.1	6.1	5.6	4.6	3.0	5.1	2.5	3.0	4.6
従業員人手	-17.9	-15.3	-15.7	-15.2	-14.2	-12.7	-14.2	-8.6	-10.7
設備状況	-7.1	-6.1	-5.6	-4.1	-5.1	-7.6	-4.1	-3.6	-4.1

業況について

2024年7月～9月期 ～業況は前期比1.0ポイント減と小幅な悪化～

2024年7月～9月期、製造業の業況判断(DI)は12.0(前期比1.0ポイント減)と小幅な悪化。最多納入先別にみる業況判断(DI)では、「大メーカー向け」(前期38.1→今期48.9)は大幅な改善となった。「問屋・商社向け」(同18.2→同16.0)はわずかな悪化。「中小メーカー・仲間業者向け」(同1.7→同▲3.5)と悪化。「小売・最終需要家向け」(同22.2→同11.8)と大幅な悪化。

来期予想の業況判断(13.0)は小幅な改善の見通し。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー・仲間業者	小売・最終需要家
全体	200	25	45	113	17
良い～悪い	24	4	22	-4	2
DI	12.0	16.0	48.9	-3.5	11.8

売上額・収益・受注残の動き

～売上額、収益とともに改善、受注残はわずかな悪化～

売上額判断(DI)は17.0(前期比3.0ポイント増)と改善。収益判断(DI)は、13.0(同6.5ポイント増)は改善。

受注残判断(DI)は、10.0(同2.0ポイント減)はわずかな悪化。

来期予想は、売上額判断(21.0)は改善。受注残判断(12.5)はわずかな改善。収益判断(12.0)は小幅な悪化の見通し。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格は悪化、原材料価格は大幅な改善～

販売価格判断(DI)は38.0(前期比7.0ポイント減)と悪化。原材料価格判断(DI)は48.5(同11.0ポイント減)と大幅な改善となった。

来期予想の販売価格判断(34.5)は悪化。原材料価格判断(45.0)は改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

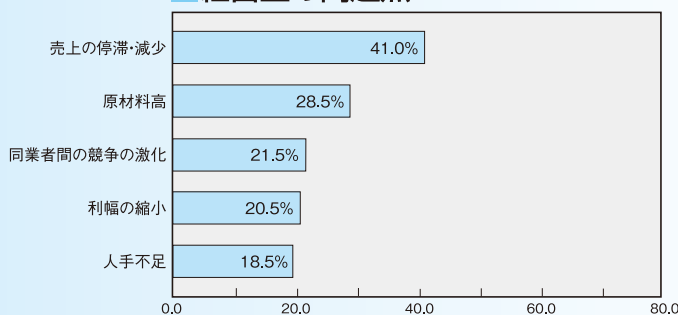
～資金繰りは悪化、人手については改善～

資金繰り判断(DI)は3.0(前期比6.0ポイント減)と悪化。

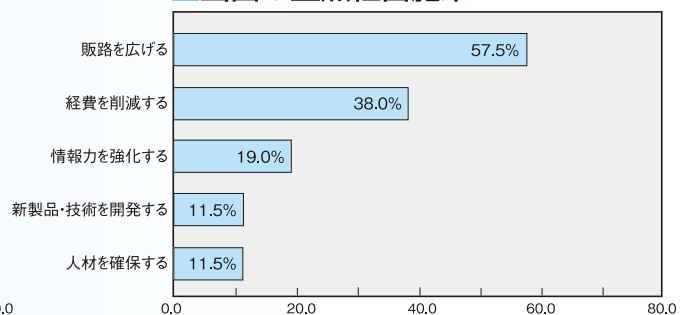
人手判断(DI)は▲8.6(同5.6ポイント増)は改善となった。人手判断の内訳は、不足とした企業は前期14.2%→今期9.6%は低下、適正とした企業の割合は同85.8%→同89.4%は上昇した。人手過剰とした企業の割合は同0.0%→同1.0%と小幅な上昇。

来期予想の資金繰り判断(2.0)小幅な悪化、人手判断(▲10.7)わずかな悪化の見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

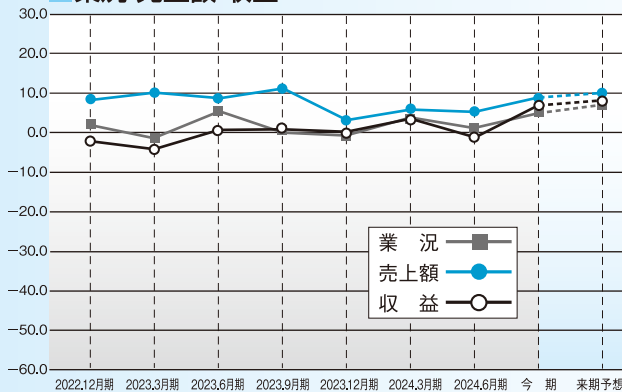


企業のコメント



- ・メーカーからの設備投資好調。取引先へ価格交渉も積極的に実施。(攪拌機)
- ・原材料高騰分も価格転嫁が進んでおり、利益も確保できている。(エンジン部品)
- ・業況横ばいとなっている。(段ボール)
- ・受注量安定推移し利益率も順調。人手不足の解消が課題。(樹脂製品)
- ・原価高騰により利益率圧迫が続いている。(ゴム製品製造業)
- ・自動車メーカーの不正問題にて減収減益。(自動車関連金型)

業況・売上額・収益



金属機械工業 DI値の推移

	2022.12月期	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	今期	来期予想
業況	1.5	-1.0	5.5	0.0	-0.5	4.0	1.5	5.5	7.5
売上額	8.1	10.0	9.5	11.0	3.0	6.0	5.5	9.0	10.0
受注残	9.1	9.5	7.5	11.0	4.5	7.5	2.5	9.5	8.5
収益	-2.5	-4.0	0.5	1.0	0.0	4.0	-1.5	7.5	8.0
販売価格	31.3	37.5	29.5	29.5	30.0	26.0	27.5	22.5	22.0
原材料価格	62.9	60.0	50.5	55.5	47.0	39.0	45.5	36.5	34.5
在庫	0.0	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	0.5	0.0
資金繰り	2.0	4.5	0.5	-3.0	0.0	-2.5	4.0	4.5	5.0
従業員残業時間	6.6	4.0	5.5	5.5	4.0	0.5	0.0	3.5	4.0
従業員人手	-10.6	-16.5	-13.5	-10.5	-14.5	-12.0	-12.0	-10.0	-11.5
設備状況	-3.5	-5.0	-3.5	-2.5	-3.0	-2.0	-5.5	-3.5	-4.0

業況について

2024年7月～9月期 ～業況は前期比4.0ポイント増と改善～

2024年7月～9月期、金属機械工業の業況判断(DI)は5.5(前期比4.0ポイント増)と改善。最多納入先別の業況判断(DI)は、「小売・最終需要家向け」(前期0.0→今期33.3)とかなり大幅な改善。「中小メーカー・仲間業者」(同▲10.6→同▲2.6)は改善となった。「問屋・商社」(同0.0→同0.0)は横ばい。「大メーカー」(同26.2→同21.0)は悪化した。来期予想の業況判断(7.5)はわずかな改善の見通し。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー・仲間業者	小売・最終需要家
全体	200	13	62	122	3
良い～悪い	11	0	13	-3	1
DI	5.5	0.0	21.0	-2.5	33.3

売上額・収益・受注の動き

～売上額は改善、受注残、収益とともに改善～

売上額判断(DI)は9.0(前期比3.5ポイント増)、受注残判断(DI)は9.5(同7.0ポイント増)、収益判断(DI)は7.5(同9.0ポイント増)とともに改善した。来期予想の売上額判断(10.0)は小幅な改善、受注残判断(8.5)は小幅な悪化。収益判断(8.0)は概ね横ばいの見通し。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格は悪化、原材料価格は改善～

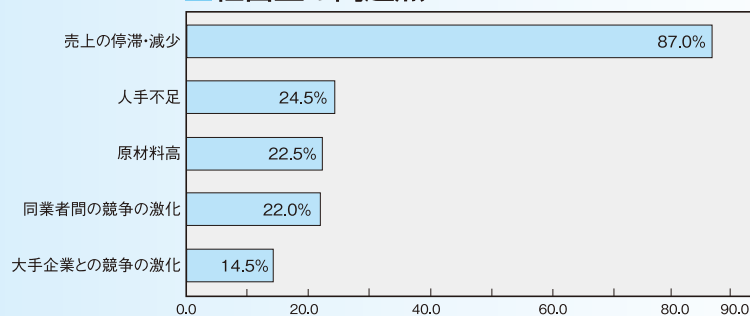
販売価格判断(DI)は22.5(前期比5.0ポイント減)は悪化。原材料価格判断(DI)36.5(同9.0ポイント減)は改善した。来期予想の販売価格判断(22.0)は概ね横ばい、原材料価格判断(34.5)はわずかな改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

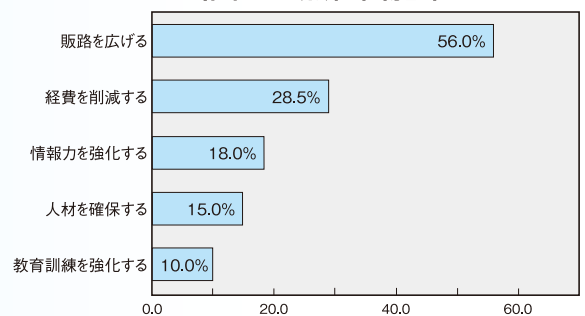
～資金繰りは概ね横ばい、人手についてはわずかな改善～

資金繰り判断(DI)は4.5(前期比0.5ポイント増)と概ね横ばい。人手判断(DI)は▲10.0(同2.0ポイント増)とわずかな改善。人手判断の内訳は、適正とした企業の割合は前期87.0%→今期88.0%と小幅な上昇、人手過剰とした企業の割合は同0.5%→同1.0%と概ね横ばい、不足とした企業の割合は同12.5%→同11.0%とわずかな低下となった。来期予想の資金繰り判断(5.0)は概ね横ばい、人手判断(▲11.5)はわずかな悪化の見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

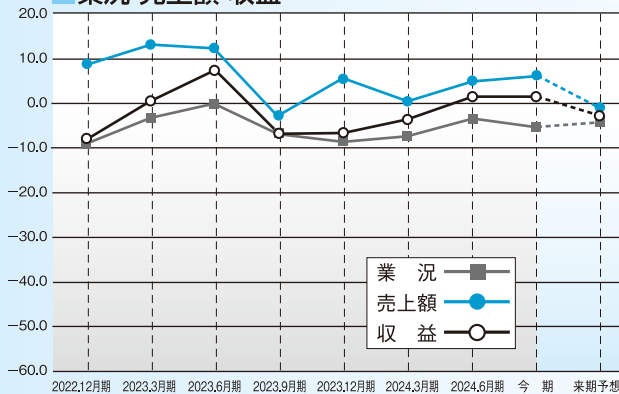


企業のコメント



- ・大口受注先以外からの受注も増加傾向。今後も見通しが明るい。(発電機)
- ・材料費の値上げ以上に価格転嫁で利益率が上昇。(減速機・ジャッキ)
- ・鋼材価格の上昇で利益減少も、受注依頼増加で売上は維持できている。(金属加工)
- ・部材不足は解消している。受注は毎月安定しないが確保できている。(配電盤製造)
- ・人手不足が常態化しており、人材確保したい。(電子部品)
- ・価格交渉はしているが、結果がでていない。今後も価格交渉はしていく。(製缶鋁金)

業況・売上額・収益



卸売業 DI値の推移

	2022.12月期	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	今期	来期予想
業況	-9.2	-3.4	0.0	-6.7	-8.3	-7.5	-3.3	-5.0	-4.2
売上額	9.2	13.6	12.5	-2.5	5.8	0.8	5.0	5.8	-0.8
収益	-8.4	0.8	7.5	-6.7	-6.7	-3.3	1.7	1.7	-2.5
販売価格	32.5	34.7	20.0	30.0	34.2	30.0	29.2	25.8	25.0
仕入価格	55.8	49.2	38.3	45.0	45.0	36.7	41.7	40.8	37.5
在庫	3.4	5.9	1.7	2.5	4.2	6.7	5.0	0.8	0.0
資金繰り	-12.5	-9.3	-5.0	-2.5	-17.0	-4.2	-6.7	-3.3	-4.2
従業員残業時間	3.3	-1.7	1.7	1.7	4.2	7.5	8.3	5.8	4.2
従業員人手	-7.6	-5.9	-8.3	-2.5	-4.2	-8.3	-4.2	-6.7	-7.5
設備状況	-1.7	0.8	-0.8	0.0	-2.5	-2.5	-0.8	0.8	0.0

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー・仲間業者	小売業者
全 体	120	27	14	53	26
良い～悪い	-6	0	1	-5	-2
D I	-5.0	0.0	7.1	-9.4	-7.7

業況について

2024年7月～9月期 ～業況は前期比1.7ポイント減とわずかな悪化～

2024年7月～9月期、卸売業の業況判断(DI)は▲5.0(前期比1.7ポイント減)とわずかな悪化。

最多納入先別の業況判断(DI)は、「問屋・商社」(前期▲11.5→今期0.0)はかなり大幅な改善、「大メーカー」(同0.0→同7.1)、「小売業者」(同▲11.5→同▲7.7)とともに改善。「中小メーカー・仲間業者」(同3.8→同▲9.4)はかなり大幅な悪化となった。

来期予想の業況判断(▲4.2)は概ね横ばいの見通し。

売上額・収益の動き

～売上額は概ね横ばい、収益は横ばい～

売上額判断(DI)は5.8(前期比0.8ポイント増)は概ね横ばい、収益判断(DI)は1.7(同変動なし)は横ばいした。

来期予想の売上額判断(▲0.8)は悪化、収益判断(▲2.5)は悪化の見通し。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は悪化、仕入価格は概ね横ばい～

販売価格判断(DI)は25.8(前期比3.4ポイント減)は悪化。仕入価格判断(DI)は40.8(同0.9ポイント減)は概ね横ばいとなった。

来期予想の販売価格判断(25.0)は概ね横ばい、仕入価格判断(37.5)は改善の見通し。

資金繰り・雇用の動き

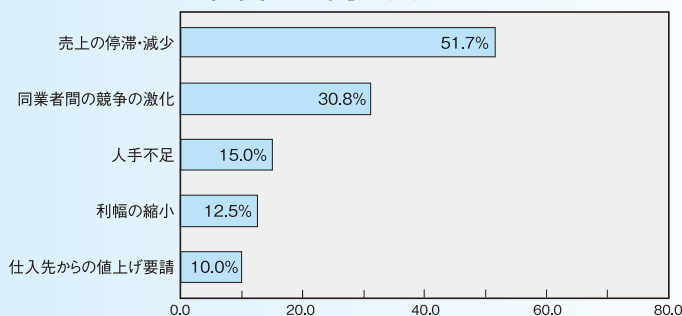
～資金繰りは改善、人手についてはわずかな悪化～

資金繰り判断(DI)は▲3.3(前期比3.4ポイント増)と改善。

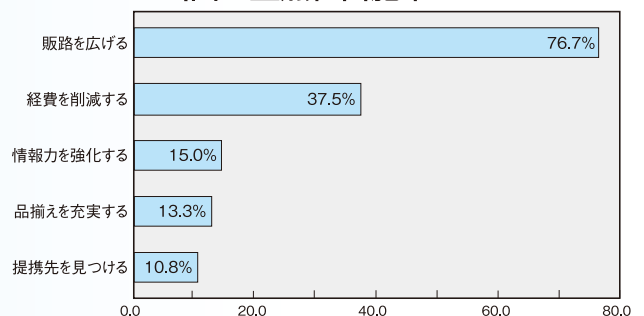
人手判断(DI)は▲6.7(同2.5ポイント減)のわずかな悪化となった。人手判断の内訳は、適正とした企業の割合は前期94.2%→今期93.3%と概ね横ばい、人手過剰とした企業の割合は同0.8%→同0.0%と概ね横ばいとなる。不足とした企業の割合は同5.0%→同6.7%とわずかな上昇となった。

来期予想の資金繰り判断(▲4.2)、人手判断(▲7.5)とともに概ね横ばいの見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

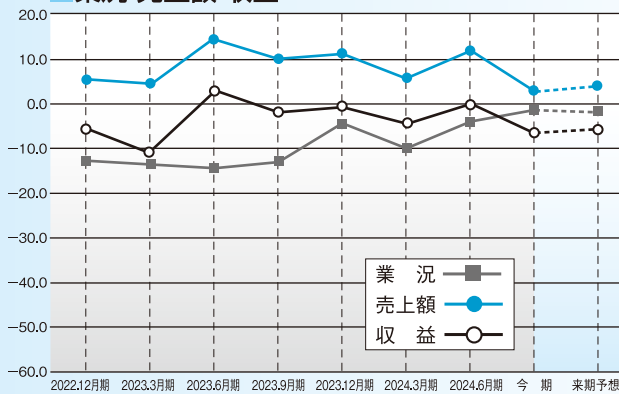


企業のコメント



- ・猛暑により外出控える人が増え、自宅内のできる運動器具、健康関連商品が売れている。(化粧品)
- ・生コンクリート価格上昇基調。関西圏では生コンクリートの販売見通し良好。(生コンクリート)
- ・卸売・ネット販売部門は順調。店舗販売はコロナ禍で落ち込み後、回復は鈍い。(革製品)
- ・今年は寒くなるのが遅い見通しであり、冬物も苦戦が予想される。(肌着・ストッキング等)
- ・本業で利益出ているも、為替差損による赤字が響いている。(機械部品)
- ・円安による為替差損が拡大しており、リスクヘッジ急務。(生鮮食品)

業況・売上額・収益



小売業 DI値の推移

	2022.12月期	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	今期	来期予想
業況	-12.9	-13.6	-14.0	12.7	-4.7	-10.0	-4.0	-1.3	-2.0
売上額	6.1	4.7	14.0	10.0	11.3	5.3	12.0	2.7	4.7
収益	-5.4	-10.8	2.7	-2.0	-0.7	-4.7	0.0	-6.7	-6.0
販売価格	34.7	34.5	29.3	32.7	28.0	27.3	28.0	28.7	27.3
仕入価格	57.1	54.1	43.3	47.3	46.7	38.0	45.3	44.0	39.0
在庫	2.0	1.4	2.0	6.0	6.7	2.7	5.3	0.0	0.0
資金繰り	-12.2	-9.5	-10.0	-8.0	-12.0	-9.3	-14.0	-11.3	-11.4
従業員残業時間	0.0	2.0	3.3	0.0	2.7	1.3	2.0	4.0	4.0
従業員人手	-1.4	-5.5	-11.3	-9.3	-12.0	-8.7	-13.3	-6.7	-7.3
設備状況	-0.7	-2.0	-3.3	-3.3	-3.3	-2.0	-2.0	0.0	-2.0

業況について

2024年7月～9月期 ～業況は前期比2.7ポイント増のわずかな改善～

2024年7月～9月期、小売業の業況判断(DI)は▲1.3(前期比2.7ポイント増)とわずかな改善。

店舗立地地域別の業況判断(DI)は、「住宅地隣接商店街」(前期▲6.7→今期▲1.8)、「その他」(同8.1→同12.8)とともに改善。

「駅周辺商店街」(同▲9.4→同▲10.9)はわずかな悪化となった。

来期予想の業況判断(▲2.0)は概ね横ばいの見通し。

◎店の立地地域別業況について(当期)

	合 計	駅周辺商店街	住宅地隣接商店街	そ の 他
全 体	150	55	56	39
良い～悪い	-2	-6	-1	5
D I	-1.3	-10.9	-1.8	12.8

売上額・収益の動き

～売上額、収益とともに悪化～

売上額判断(DI)は2.7(前期比9.3ポイント減)、収益判断(DI)は▲6.7(同6.7ポイント減)とともに悪化した。

来期予想の売上額判断(4.7)はわずかな改善、収益判断(▲6.0)は概ね横ばいの見通し。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は概ね横ばい、仕入価格は小幅な改善～

販売価格判断(DI)は28.7(前期比0.7ポイント増)と概ね横ばい。仕入価格判断(DI)は44.0(同1.3ポイント減)と小幅な改善となった。

来期予想の販売価格判断(27.3)と小幅な悪化、仕入価格判断(39.3)と改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

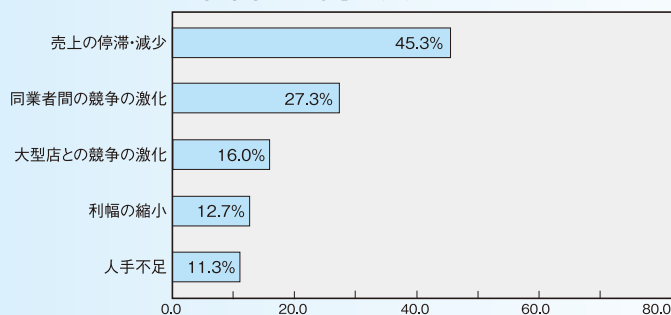
～資金繰りわずかな改善、人手については改善～

資金繰り判断(DI)は▲11.3(前期比2.7ポイント増)とわずかな改善。

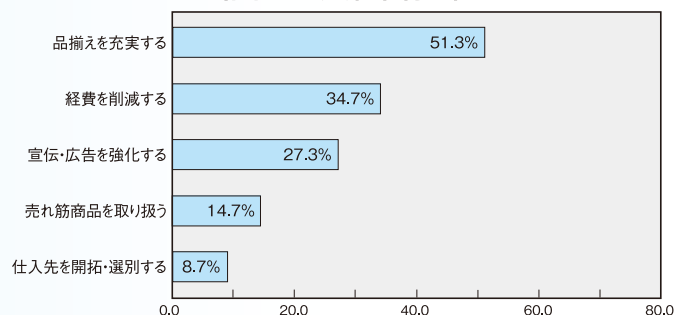
人手判断(DI)は▲6.7(同6.6ポイント増)と改善。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期0.0%→今期2.0%とわずかな上昇、不足とした企業の割合は同13.3%→同8.7%と低下、適正とした企業は同86.7%→同89.3%とわずかな上昇となった。

来期予想の資金繰り判断(▲11.4)はほぼ横ばい、人手判断(▲7.3)は概ね横ばいの見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

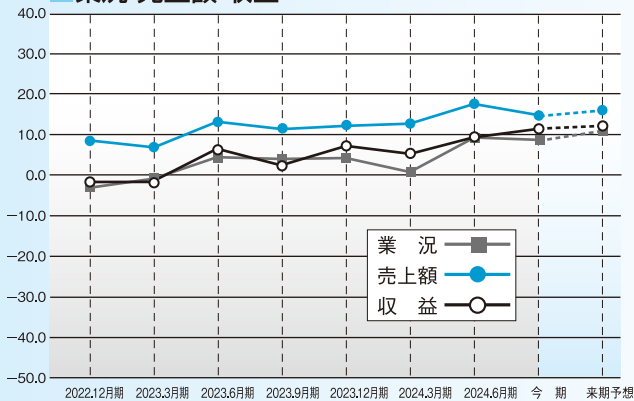


企業のコメント



- ・来店客の少なさをネット販売でカバー。転職ビジネスも展開しており売上増加傾向。(ハンコ・ゴム印)
- ・過去からの独自ルートの仕入により価格抑えて販売しており、近隣住人からの評判良好。(日用品)
- ・米不足が続いており、日本酒造りへの影響を懸念。今のところは問題ない。(酒類販売)
- ・売上は増加傾向にあるが、為替変動により利益率悪化の可能性あり。(ウィッグ販売)
- ・食料品値上げが続いており、近隣スーパーとの競合もあり、価格設定に苦慮している。(食料品)
- ・業界全体として新車の売れ行きが悪く、中古車の流通も減少している。(自動車小売業)

業況・売上額・収益



サービス業 DI値の推移

	2022.12月期	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	今期	来期予想
業況	-3.5	-1.0	4.5	4.0	4.0	0.5	9.5	9.0	10.5
売上額	8.0	6.1	13.5	11.0	12.0	12.5	17.5	15.0	16.0
収益	-1.5	-1.5	6.0	2.5	7.0	5.5	9.5	11.5	12.0
料金価格	19.1	17.2	20.0	21.0	17.5	21.5	22.0	18.0	17.0
材料価格	39.2	36.9	36.5	34.5	30.0	31.5	28.5	26.0	25.0
資金繰り	-2.0	-3.5	-4.5	-2.0	-2.5	-5.5	-1.5	-2.0	-3.0
従業員残業時間	4.5	5.1	4.5	7.5	6.5	5.0	6.0	4.5	2.0
従業員人手	-17.6	-15.2	-16.0	-16.0	-17.0	-10.5	-14.0	-8.0	-7.5
設備状況	-4.5	-4.5	-1.5	-5.0	-4.0	-2.5	-3.5	-1.5	-1.5

業況について

2024年7月～9月期 ～業況は前期比0.5ポイント減の概ね横ばい～

2024年7月～9月期、サービス業の業況判断(DI)は9.0(前期比0.5ポイント減)と概ね横ばい。

来期予想の業況判断(10.5)はわずかな改善の見通し。

売上額・収益の動き

～売上額はわずかな悪化、収益はわずかな改善～

売上額判断(DI)は15.0(前期比2.5ポイント減)とわずかな悪化、収益判断(DI)は11.5(同2.0ポイント増)とわずかな改善。

来期予想の売上額判断(16.0)と小幅な改善、収益判断(12.0)は概ね横ばいの見通し。

料金価格・材料価格の動き

～料金価格は悪化、材料価格はわずかな改善～

料金価格判断(DI)は18.0(前期比4.0ポイント減)と悪化。

材料価格判断(DI)は26.0(同2.5ポイント減)とわずかな改善。

来期予想の料金価格判断(17.0)は小幅な悪化、材料価格判断(25.0)と小幅な改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

～資金繰りは概ね横ばい、人手については改善～

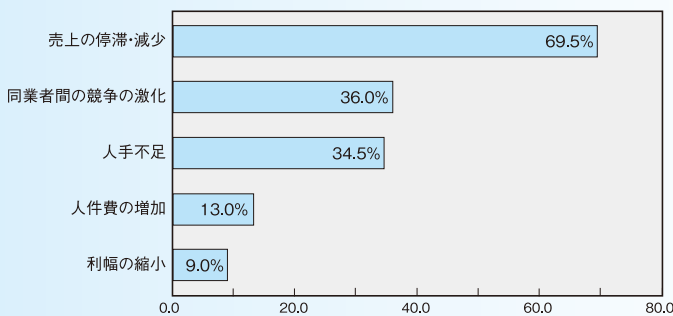
資金繰り判断(DI)は▲2.0(前期比0.5ポイント減)は概ね横ばい。

人手判断(DI)は▲8.0(同6.0ポイント増)と改善。人手判断の内訳は、人手不足とした企業の割合は前期15.0%→今期9.5%と低下。

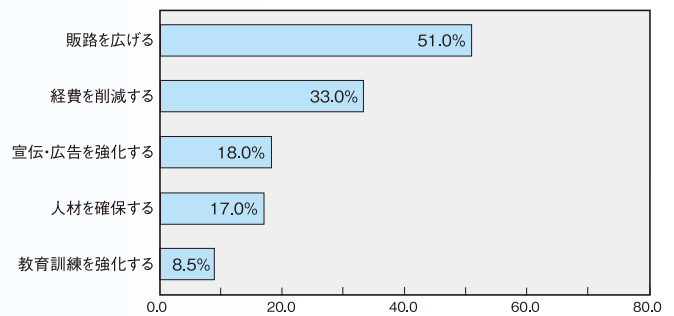
人手過剰とした企業の割合は同1.0%→同1.5%と概ね横ばい。適正とした企業の割合は同84.0%→同89.0%と上昇。

来期予想の資金繰り判断(▲3.0)は小幅な悪化、人手判断(▲7.5)は概ね横ばいの見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

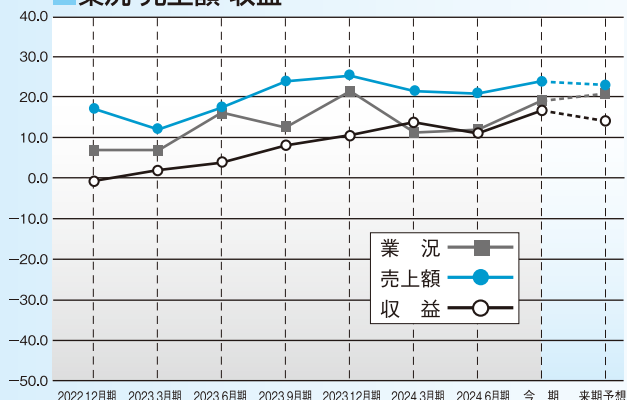


企業のコメント



- ・キャンプ場増設工事中。現状は週末などほぼ満室。(旅館)
- ・業況毎期安定。海外企業向けの翻訳が好調であり、円安も追い風し、売上増加に寄与。(医療向け翻訳)
- ・現状人手は不足していないが従業員高齢化しており若い人材の確保を検討。(自動車設備)
- ・人件費や運賃等が高騰し、利益率少し悪化。採算とれる仕事も受け、利益率良化を図る。(梱包・運送倉庫)
- ・数十年ぶりに最終赤字。今後は価格転嫁、販路拡大で再度黒字化を目指す。(印刷)
- ・ドライバー不足であり、募集しても集まらない状況。(運送業)

業況・売上額・収益



建設業 DI値の推移

	2022.12月期	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	今期	来期予想
業況	7.5	7.5	16.0	12.5	21.5	11.5	12.0	19.0	20.5
売上額	17.5	12.1	17.5	24.0	25.5	21.5	20.5	24.0	23.0
受注残	16.0	13.6	7.0	16.0	22.0	18.5	14.0	21.5	19.5
施工高	21.0	17.1	17.0	23.0	29.0	25.0	24.0	23.5	22.5
収益	-0.5	2.0	4.0	8.0	10.5	13.5	11.0	17.0	14.5
請負価格	35.5	30.7	26.0	32.0	34.0	30.5	31.5	30.0	28.0
原材料・仕入価格	73.0	68.3	53.0	58.0	53.0	48.0	50.0	48.0	44.0
在庫	-2.5	-2.0	-3.5	-0.5	2.5	0.5	0.5	0.0	-2.0
資金繰り	-0.5	-2.5	-4.0	-2.0	1.5	-2.5	3.0	2.5	0.0
従業員残業時間	6.0	6.0	5.5	5.0	6.5	8.0	10.0	9.0	5.0
従業員人手	-21.0	-18.6	-19.0	-22.0	-26.0	-23.5	-22.5	-23.0	-21.5
設備状況	-3.0	-3.5	-2.0	-1.0	-3.0	-2.0	-1.0	0.5	-1.0

◎最多請負先別の業況について(当期)

	合計	官公庁	大企業	中小企業	個人
全体	200	37	67	85	11
良い～悪い	38	14	20	2	2
DI	19.0	37.8	29.9	2.4	18.2

業況について

2024年7月～9月期 ～業況は前期比7.0ポイント増の改善～

2024年7月～9月期、建設業の業況判断(DI)は19.0(前期比7.0ポイント増)と改善した。

請負先別の業況(DI)は、「個人向け」(前期▲27.3→今期18.2)はかなり大幅な改善、

「官公庁向け」(同31.6→同37.8)、「大企業向け」(同25.4→同29.9)、「中小業向け」(同▲1.1→同2.4)は改善となった。

来期予想の業況判断(20.5)はわずかな改善の見通し。

売上額・収益・受注残の動き

～売上額、収益、受注残とともに改善～

売上額判断(DI)は24.0(前期比3.5ポイント増)と改善。収益判断(DI)は17.0(同6.0ポイント増)と改善、

受注残判断(DI)は21.5(前期比7.5ポイント増)と改善した。

来期予想の売上額判断(23.0)は小幅な悪化、受注残判断(19.5)、収益判断(14.5)とともにわずかな悪化の見通し。

請負価格・原材料価格の動き

～請負価格はわずかな悪化、原材料価格はわずかな改善～

請負価格判断(DI)は30.0(前期比1.5ポイント減)とわずかな悪化。原材料価格判断(DI)は48.0(同2.0ポイント減)とわずかな改善となった。

来期予想の請負価格判断(28.0)はわずかな悪化、原材料価格判断(44.0)はわずかな改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

～資金繰り、人手とともに概ね横ばい～

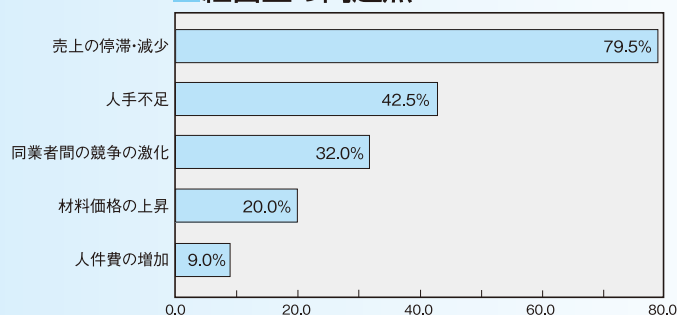
資金繰り判断(DI)は2.5(前期比0.5ポイント減)と概ね横ばい。

人手判断(DI)は▲23.0(前期比0.5ポイント減)と概ね横ばい。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期0.0%→今期0.5%と概ね横ばい。

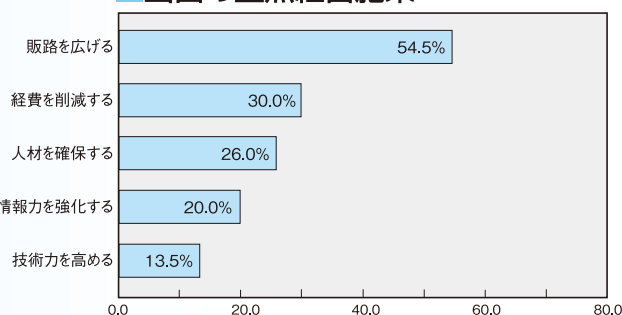
適正とした企業の割合は同77.5%→同76.0%とわずかな低下。また、人手不足とした企業の割合は同22.5%→同23.5%は小幅な上昇となった。

来期予想の資金繰り判断(0.0)とわずかな悪化、人手判断(▲21.5)はわずかな改善の見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

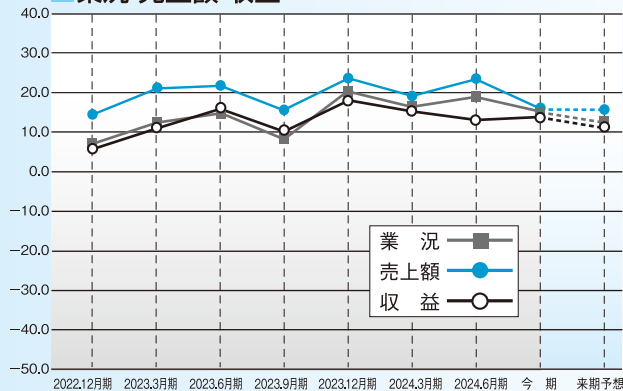


企業のコメント



- ・業況良好であり、来期の受注も決まりだしている。この調子を維持する。(建築工事の設計・施工)
- ・コロナで延期になっていた受注が決まりだし、先行き見通し明るい。(建築工事)
- ・受注は堅調推移。外国人労働者確保しているが、人手確保は引き続き課題。(土木工事)
- ・受注量変わらず、業況盛栄。人材不足は継続し深刻。休日現場も増え、工期もタイトである。(型枠工事業)
- ・一次請け先変更により、回収サイト長期化資金繰り圧迫。(内装工事)
- ・受注単価は上がるも、資材と人件費増加分を賄えない。工事行程を徹底し、利益確保していく。(型枠工事)

業況・売上額・収益



不動産業 DI値の推移

	2022.12月期	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	今期	来期予想
業況	7.0	11.6	14.6	7.7	20.0	16.9	18.5	15.4	12.3
売上額	14.1	20.5	20.8	15.4	23.8	19.2	23.1	16.2	16.2
収益	5.5	10.7	15.4	10.0	17.7	15.4	13.1	14.6	10.8
販売価格	50.4	46.7	38.5	42.3	42.3	35.4	36.9	31.5	29.2
仕入価格	61.2	53.3	57.7	53.1	54.6	47.7	49.2	43.1	37.7
在庫	-33.3	-18.2	-19.2	-16.9	-16.2	-11.5	-6.2	-7.7	-10.0
資金繰り	3.1	2.5	4.6	-1.5	1.5	-2.3	1.5	-1.5	-3.8
従業員残業時間	3.9	4.1	4.6	0.8	2.3	2.3	2.3	2.3	4.6
従業員人手	-5.5	-2.4	-5.4	-1.5	-1.5	-2.3	-4.6	-3.8	-4.6

業況について

2024年7月～9月期 ～業況は前期比3.1ポイント減の悪化～

2024年7月～9月期、不動産業の業況判断(DI)は15.4(前期比3.1ポイント減)と悪化。

業種内容別業況では、「建売」(前期19.8→今期17.8)はわずかな悪化、

「賃貸」(同6.3→同0.0)、「仲介管理」(同21.7→同16.7)は悪化。

来期予想の業況判断(12.3)は悪化の見通し。

◎業種内容別業況について(当期)

	全 体	賃 貸	建 売	仲介管理
全 体	130	16	90	24
良い～悪い	20	0	16	4
D I	15.4	0.0	17.8	16.7

売上額・収益の動き

～売上額は悪化、収益はわずかな改善～

売上額判断(DI)は16.2(前期比6.9ポイント減)と悪化、収益判断(DI)は14.6(同1.5ポイント増)とわずかな改善となった。

来期予想の売上額判断(16.2)は横ばい、収益判断(10.8)は悪化の見通し。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は悪化、仕入価格は改善～

販売価格判断(DI)は31.5(前期比5.4ポイント減)と悪化、仕入価格判断(DI)は43.1(同6.1ポイント減)と改善となった。

来期予想の販売価格判断(29.2)はわずかな悪化、仕入価格判断(37.7)は改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

～資金繰りは悪化、人手については概ね横ばい～

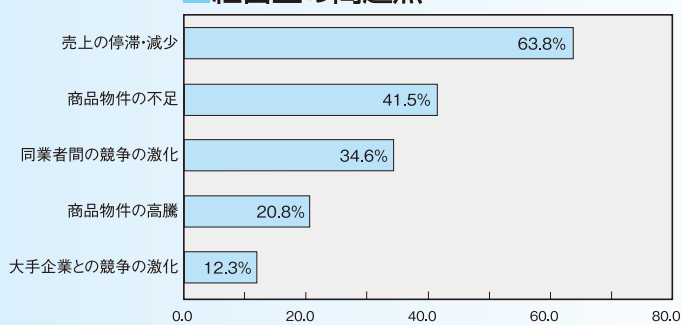
資金繰り判断(DI)は▲1.5(前期比3.0ポイント減)と悪化。

人手判断(DI)は▲3.8(前期比0.8ポイント増)と概ね横ばい。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期0.8%→今期0.8%と横ばい。

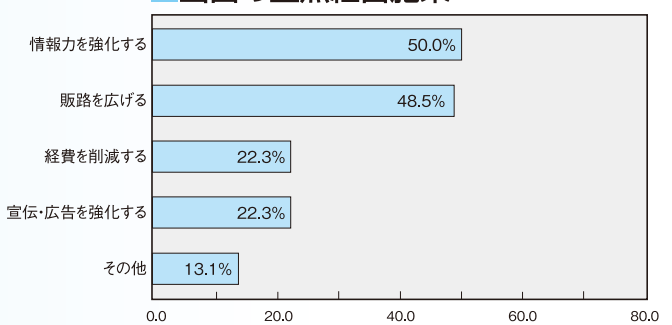
適正とした企業の割合は同93.8%→同94.6%と概ね横ばい。人手不足とした企業の割合は同5.4%→同4.6%と概ね横ばいとなった。

来期予想の資金繰り判断は(▲3.8)はわずかな悪化、人手判断は(▲4.6)は概ね横ばいの見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策



企業のコメント

- ・最近京都物件の回転率が良く売買価格も高額なため売上増加している。(不動産)
- ・他社と比べて、リフォーム工事技術が優れており、販売状況良好に推移している。(不動産)
- ・入居者も安定しており、家賃等値上げするつもりない。(不動産仲介・売買)
- ・土地価格上昇しており、利益に転嫁できるかが重要。(不動産斡旋)
- ・全体的に動きが悪く、売上低下している。近隣の大手競合他社が低価格でだしている。(不動産売買)
- ・土地価格の高騰、建築資材の高騰もあり、分譲計画が立てにくい状況が続いている。(不動産)

今回の北おおさか信金景気動向特別調査は「DX(デジタルトランスフォーメーション)について」をテーマにアンケート調査を行いました。調査期間は2024年9月2日～6日。
調査対象は北大阪を中心とする地元企業1,200社で、有効回答は1,196社(有効回答率99.9%)。

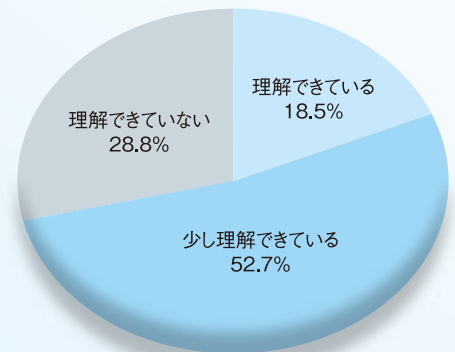


DXの具体的な内容や目的については理解されていますか

～「理解できている」18.5%、
「少し理解できている」52.7%、
「理解できていない」28.8%～

「内容や目的については理解されていますか」について聞いたところ、「理解できている」と回答した企業割合は全体で18.5%となった(業種別では、サービス業22.1%と高く、次いで製造業21.5%)。「少し理解できている」と回答した企業割合は全体で52.7%(業種別では、不動産業59.4%と高く、次いで製造業56.5%)。「理解できていない」と回答した企業割合は全体で28.8%(業種別では、小売業38.7%、次いで金属機械工業30.7%)となった。

DXの具体的な内容や目的については理解されていますか



業種 × DXの具体的な内容や目的については理解されていますか

合 計	回 答	業 種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
18.5%	理解できている		21.5%	17.6%	19.2%	16.0%	22.1%	16.5%	15.6%
52.7%	少し理解できている		56.5%	51.8%	50.8%	45.3%	51.3%	53.5%	59.4%
28.8%	理解できていない		22.0%	30.7%	30.0%	38.7%	26.6%	30.0%	25.0%

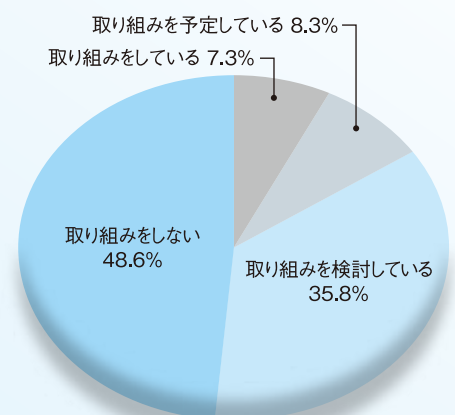


DXについて取り組みをしていますか。

～「取り組みをしている」7.3%、
「取り組みを予定している」8.3%、
「取り組みを検討している」35.8%、
「取り組みをしない」48.6%～

「取り組みをしていますか」について聞いたところ、「取り組みをしている」と回答した企業割合は7.3%となった(業種別では、小売業10.7%と高く、次いでサービス業10.0%)。「取り組みを予定している」と回答した企業割合は8.3%となった(業種別では、サービス業11.5%と高く、次いで卸売業10.8%)。「取り組みを検討している」と回答した企業割合は、35.8%となった(業種別では、製造業41.0%と高く、次いで、建設業39.5%)。「取り組みをしない」と回答した企業割合は、48.4%となった(業種別では、金属機械工業53.8%と高く、次いで、小売業51.7%)。

DXについて取り組みをしていますか



業種 × DXについて取り組みをしていますか

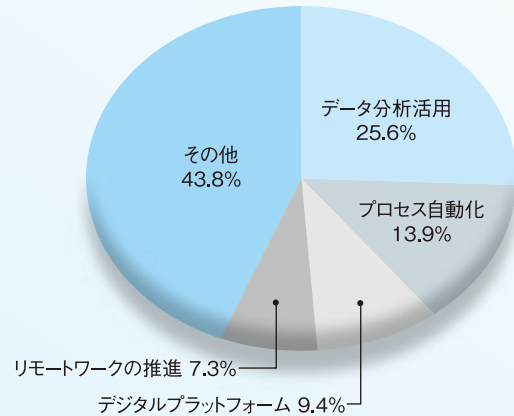
合 計	回 答	業 種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
7.3%	取り組みをしている		9.5%	5.0%	8.3%	10.7%	10.0%	3.5%	3.9%
8.3%	取り組みを予定している		8.0%	5.5%	10.8%	8.1%	11.5%	7.5%	7.0%
35.8%	取り組みを検討している		41.0%	35.7%	30.8%	29.5%	33.5%	39.5%	38.0%
48.6%	取り組みをしない		41.5%	53.8%	50.0%	51.7%	45.0%	49.5%	51.2%



DXについてどのような取り組みを行っていますか。(複数回答可)

～「データ分析活用」25.6%、
「プロセス自動化」13.9%、
「デジタルプラットフォーム」9.4%～

「どのような取り組みを行っていますか」について聞いたところ、
「データ分析活用」と回答した企業割合は25.6%と2割以上となった
(業種別では、小売業30.2%と高く、次いで不動産業27.6%)。
「プロセス自動化」と回答した企業割合は13.9%となった
(業種別では、製造業16.5%と高く、次いで金属機械工業16.4%)。
「デジタルプラットフォーム」と回答した企業割合は9.4%となった
(業種別では、小売業12.6%と高く、次いでサービス業11.0%)。

DXについて
どのような取り組みを行っていますか

業種 × DXについてどのような取り組みを行っていますか(複数回答可)

業 種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
合 計	25.6%	13.9%	9.4%	7.3%	43.8%		
データ分析活用	23.9%	24.4%	24.2%	30.2%	26.1%	24.5%	27.6%
プロセス自動化	16.5%	16.4%	12.1%	10.4%	14.8%	12.6%	11.3%
デジタルプラットフォーム	8.6%	9.0%	8.8%	12.6%	11.0%	9.6%	5.9%
リモートワークの推進	6.5%	6.4%	12.1%	6.3%	8.4%	4.0%	9.9%
その他	44.5%	43.8%	42.9%	40.5%	39.7%	49.3%	45.3%

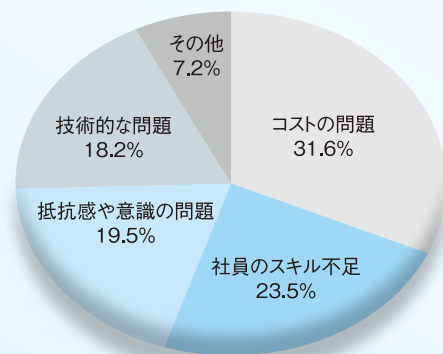


DXを進める上で、課題は何ですか。

～「コストの問題」31.6%、
「社員のスキル不足」23.5%、
「抵抗感や意識の問題」19.5%～

「進める上で、課題は何ですか」について聞いたところ、
「コストの問題」と回答した企業割合は31.6%と最も多かった
(業種別では、小売業38.6%と高く、次いで製造業36.9%)。
「社員のスキル不足」と回答した企業割合は23.5%となった
(業種別では、金属機械工業、卸売業28.4%と高く、次いで建設業27.9%)。
「抵抗感や意識の問題」と回答した企業割合は19.5%となった
(業種別では、卸売業25.0%と高く、次いで不動産業21.6%)。

DXを進める上で、課題は何ですか



業種 × DXを進める上で、課題は何ですか

業 種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
合 計	31.6%	23.5%	19.5%	18.2%	7.2%		
コストの問題	36.9%	24.9%	26.7%	38.6%	35.9%	27.9%	29.6%
社員のスキル不足	18.2%	28.4%	28.4%	24.1%	18.5%	27.9%	19.2%
抵抗感や意識の問題	20.2%	16.2%	25.0%	20.0%	20.0%	16.8%	21.6%
技術的な問題	19.2%	22.3%	13.8%	11.7%	17.9%	18.8%	21.6%
その他	5.6%	8.1%	6.0%	5.5%	7.7%	8.6%	8.0%

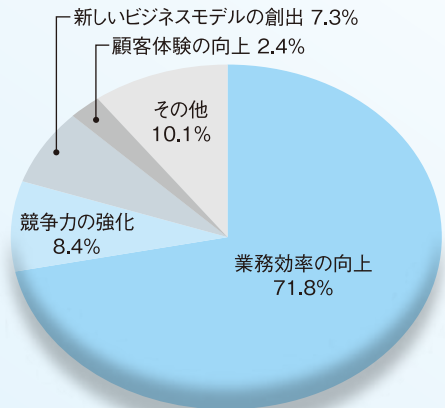


DXの進展によって、どのような変化を期待しますか。

～「業務効率の向上」71.8%、
「競争力の強化」8.4%、
「新しいビジネスモデルの創出」7.3%～

「進展によって、どのような変化を期待しますか」について聞いたところ、
「業務効率の向上」と回答した企業割合は71.8%と約7割を占めた
(業種別では、金属機械工業76.0%と高く、次いで製造業75.5%)。
「競争力の強化」と回答した企業割合は8.4%となった
(業種別では、小売業14.1%と高く、次いでサービス業9.1%)。
「新しいビジネスモデルの創出」と回答した企業割合は7.3%となった
(業種別では、小売業10.7%と高く、次いで卸売業10.3%)。

DXの進展によって、
どのような変化を期待しますか



業種 × DXの進展によって、どのような変化を期待しますか

業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
合計	71.8%	75.5%	69.8%	60.4%	70.7%	73.1%	74.2%
業務効率の向上	71.8%	75.5%	69.8%	60.4%	70.7%	73.1%	74.2%
競争力の強化	8.4%	8.0%	7.0%	6.0%	14.1%	9.1%	7.1%
新しいビジネスモデルの創出	7.3%	7.0%	5.0%	10.3%	10.7%	7.6%	6.6%
顧客体験の向上	2.4%	3.0%	1.0%	0.9%	5.4%	3.5%	1.0%
その他	10.1%	6.5%	11.0%	12.9%	9.4%	9.1%	12.2%

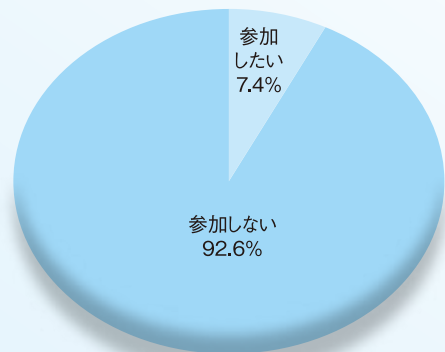


DX(生成AI)活用セミナーなどがあれば参加してみたいですか。

～「参加したい」7.4%、
「参加しない」92.6%～

「活用セミナーなどがあれば参加してみたいですか」について聞いたところ、
「参加したい」と回答した企業割合は7.4%となった
(業種別では、製造業10.1%と高く、次いで小売業8.7%)。
「参加しない」と回答した企業割合は92.6%となった
(業種別では、不動産業95.0%と高く、次いで建設業94.5%)。

DX活用セミナーなどがあれば
参加してみたいですか



業種 × DX(生成AI)活用セミナーなどがあれば参加してみたいですか

業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
合計	7.4%	10.1%	8.0%	6.9%	8.7%	7.0%	5.5%
参加したい	7.4%	10.1%	8.0%	6.9%	8.7%	7.0%	5.5%
参加しない	92.6%	89.9%	92.0%	93.1%	91.3%	93.0%	95.0%

地域密着を信条とした65か店のネットワーク

店舗のごあんない

北おおさか信用金庫 店舗配置図



(2024年10月現在)

店外ATM

- ◆ 吹田市水道部出張所
- ◆ 吹田市役所出張所
- ◆ イズミヤ千里丘店出張所
- ◆ フレンドマート岸辺出張所
- ◆ イオン高槻店出張所
- ◆ アクトアモール出張所
- ◆ 関西スーパー西冠店出張所
- ◆ サボイ出張所
- ◆ マルヤス宮田店出張所
- ◆ イオン茨木ショッピングセンター出張所

- ◆ 小曾根出張所
- ◆ 三国商店街出張所
- ◆ 神崎川駅前出張所
- ◆ 毛馬出張所
- ◆ 大池出張所

- ◆ 庄内栄町出張所
- ◆ 旭丘出張所
- ◆ 相川出張所
- ◆ 塚本駅前出張所
- ◆ 江口出張所

- ◆ 上牧出張所
- ◆ 香里出張所
- ◆ JR吹田駅前出張所

営業地域(地区別) 大阪府: 大阪市、茨木市、高槻市、吹田市、豊中市、箕面市、池田市、守口市、門真市、摂津市、寝屋川市、大東市、東大阪市、枚方市、八尾市、交野市、四條畷市、堺市、松原市、三島郡、豊能郡
兵庫県: 尼崎市、伊丹市、川西市、西宮市、宝塚市、川辺郡
京都府: 向日市、長岡京市、乙訓郡大山崎町

発行日 2024年10月31日
発行 北おおさか信用金庫 総合企画部
住所 〒567-8651 茨木市西駅前町9-32
電話 072-623-4981(代)
ホームページ <https://www.kitaosaka-shinkin.co.jp/>
編集 株式会社 きたしん総合研究所

